大阪医科薬科大学病院

MIZUKI

volume 47

医療連携室ニュース「みずき」

2021 October

特集 循環器センター始動!

循環器センター構想 チーム医療で新時代を切り開く

3つのホットライン

Dr.専用ホットラインです。

緊急時はもちろん 入院、外来受診、診断・検査・治療方針などのご相談まで、お気軽にお電話ください。

大阪医科薬科大学病院

循環器内科ホットライン

[redacted]

(医療関係者専用電話)

24時間 365日対応

万が一上記ダイヤルで繋がらない場合は（代表）072-683-1221までご連絡ください

大阪医科薬科大学病院

大動脈ホットライン

[redacted]

(医療関係者専用電話)

24時間 365日対応

万が一上記ダイヤルで繋がらない場合は（代表）072-683-1221までご連絡ください

大阪医科薬科大学病院

赤ちゃんの心臓ホットライン

[redacted]

(医療関係者専用電話)

24 時間 365 日対応

大阪医科薬科大学病院 TEL 072-683-1221（代表）

特集 2021年5月1日より、循環器センター始動

循環器センター構想 チーム医療で新時代を切り開く

星賀（ほしが） 正明（まさあき）
循環器センター センター長
循環器内科 科長
循環器専門医、総合内科専門医
米国ワシントン大学（シアトル）病理学教室留学
専門は、動脈硬化、心不全、成人先天性心疾患あらゆる循環器疾患に携わる。
大阪府医師会理事

勝間田（かつまた） 敬弘（たかひろ）
循環器センター 副センター長
心臓血管外科 科長
心臓血管外科専門医、外科専門医
英国オックスフォード心臓病センター心臓外科留学
専門は成人心臓血管外科手術。先天性心疾患、弁膜症、大動脈瘤を含めた全循環器疾患に携わる。
日本血管外科学会理事
日本冠動脈外科学会理事

センター長からご挨拶

皆様

循環器内科の星賀です。この度、循環器センターを開設いたしました。

循環器センターは、循環器疾患の診療を担う循環器内科、心臓血管外科・小児心臓血管外科、小児科（循環器）が核となっています。あらゆる循環器疾患を扱いますが、特に3つのコアチームを紹介します。**「ハートチーム」「リズムチーム」「キッズハートチーム」**です。**多職種・多診療科での、「質の高いチーム医療」**を推進します。

循環器疾患は生命を脅かすことが多いですが、重症になるまで自覚症状に乏しく発見されにくいとされます。循環器センターでは、リスクの高い方の発見や発症予防を目指します。また、キッズハートチームでは、小児から成人への移行医療にも注力しています。

従来から、**「循環器内科ホットライン」**、**「大動脈ホットライン」**、**「赤ちゃんの心臓ホットライン」**という24時間365日、医師が直接対応するホットラインを開設しております。いつでも気軽に連絡してください。

皆様に、最新の情報をいち早くお知らせするために、センターでは従来の方法に加えて、デジタル技術の導入を進めています。さらに、ニューノーマル時代に向けて、この様な技術を地域連携の医療や介護にも活かしていきます。

来年2022年7月に病院新本館が竣工します。検査室やカテーテル室、循環器病棟、救命救急センターなど、循環器に関する多くの施設が新しくなります。

どうぞ、新生循環器センターにご期待ください。

初診外来診療担当表

■ 循環器内科

	月	火	水	木	金	土(第1·3·5)
初診	伊藤 隆英 神崎 裕美子 藤田 修一 野木 信平 津田 浩佑	坂根 和志 山内 洋平 酒谷 優佳 不整脈·アブレーション 野村 悠文 心臓サルコイドーシス 寺﨑 文生 冠動脈CT	星賀 正明 神崎 裕美子 宍倉 大介 酒谷 優佳 不整脈·アブレーション 宮村 昌利 冠動脈CT	伊藤 隆英 柴田 兼作 藤阪 智弘 藤田 修一 赤松 加奈子 冠動脈CT	星賀 正明 森田 英晃 藤阪 智弘 坂根 和志 山内 洋平 酒谷 優佳 冠動脈CT	森田 英晃 宍倉 大介 不整脈·アブレーション 宮村 昌利

■ 心臓血管外科・小児心臓血管外科

	月	火	水	木	金	土(第1·3·5)
初診	岡本 順子	小澤 英樹 ペースメーカ·ICD 森本 大成	根本 慎太郎 吉井 康欣 神吉 佐智子	勝間田 敬弘 大門 雅広 ペースメーカ·ICD 森本 大成	交代制	勝間田 敬弘

■ 小児科（循環器）

	月	火	水	木	金	土(第1·3·5)
初診	小田中 豊 不整脈·アブレーション 尾崎 智康	胎児心エコー 小田中 豊(1·3·5)	岸 勘太(1·3·5) 小田中 豊(2·4) 盧田 温子	岸 勘太		

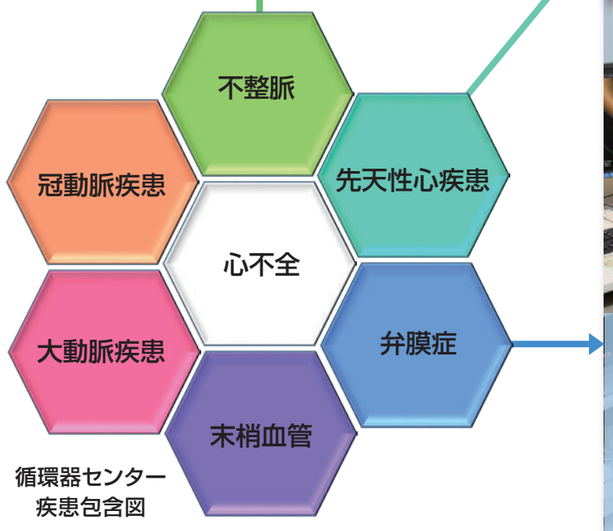
リズムチーム

当院では徐脈性不整脈に対し1966年に国内4番目の施設としてペースメーカ植込み手術を開始し多くの手術実績があります。他施設と比べ植込み後の感染など術後合併症を低く抑えることができています。また植込み型除細動器植込みや心臓再同期療法も行っており、最近の植込み型心電計やリードレスペースメーカにも対応しております。

頻脈性不整脈に関しては最近増加している心房細動に対するカテーテルアブレーション治療を積極的に行っています。また、抗凝固薬では出血リスクが高い症例に対する経皮的左心耳閉鎖術も開始しました。不整脈疾患を契機として、虚血性心疾患や心筋疾患が診断されることもありますが、循環器センターとして集学的に治療に取り組んでいます。

キッズハートチーム

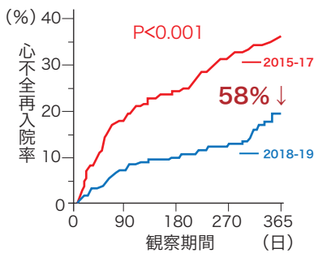
日本小児循環器学会修練施設、日本成人先天性心疾患学会認定連携修練施設、胎児心エコー認証医の認定、そして心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設である当院では、先天性心疾患診療を“2つのシームレス”で実践しています。1つ目は、小児科医、産科医、小児心臓血管外科医、麻酔科医、NICU専属医、各部署の看護師、リエゾンナース、そして患者紹介元施設の小児科医のすべてによる、一糸乱れぬチーム診療というシームレス。そして2つ目は、循環器内科医を加えた成人先天性心疾患外来も設置し、胎児期から成人期までの途切れない診療提供というシームレス。患児誰一人も取り残さない。幸いに多くの患児と親御様にご満足頂けています。まずはお気兼ねなく、専用ホットラインにご一報ください。



循環器センター
疾患包含図

ハートチーム

当院のハートチームは1964年に結成され、循環器を専門とする内科医と外科医、最近では麻酔医、看護師、臨床工学技師、理学療法士を加えた専門家集団が円陣を組み、通算2000回以上の診療検討会を行い、個々の患者さんごとに最善の治療を提供してまいりました。全国的にみても、これほど長期的に内科医と外科医の連携が確立されている施設は稀です。2017年に大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁植え込み術（TAVI）を導入して以来、内科医と外科医が一緒に治療に参加することで、チームワークはさらに強固になりました。近年、構造的心疾患に対する新しい治療法が次々と臨床応用されておりますが、当院では、真に患者さんの利益となる技術を選別し、提供してまいります。治療の適応や方法でお悩みの患者さんがおられましたら、是非、お声掛けください。ハートチームが拝見させて頂きます。



心不全再入院を防ぐ

高齢化により心不全患者が急増しています。入退院を繰り返す事が特徴です。

2015年から詳細な調査を開始し、地域の医療·介護施設と協力して、心不全の再入院予防に取り組んできました。その結果、再入院率を半分以下に抑えることができました。

医療連携室からのお知らせ

● 2022年1月10日(月･祝日)は、開院日とします

2022年1月10日(月･祝日)は開院し、外来診療、各種検査、手術等を行います。

● 無料シャトルバスのご案内

JR高槻駅 ⟷ 大阪医科薬科大学病院

● 運行日：毎週 月曜日～金曜日
2022年1月10日(月･成人の日) ※通常診療日としての開院に伴い、通常どおり運行いたします。

● 運　休：土曜･日曜･祝日･年末年始(12月29日～1月3日)
本学創立記念日(6月1日)

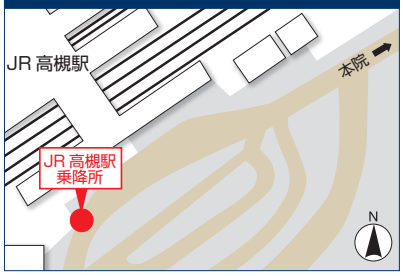
JR高槻駅～大阪医科薬科大学病院

	JR高槻駅発			大阪医薬大病院発		
8		20	40		33	53
9	00	20	40	13	33	53
10	00	20	40	13	33	53
11	00	25	45	19	38	59
12	05	25	50	19	44	
13	10	30	50	04	23	43
14	15	35	55	08	29	49
15	15	35	55	09	29	49
16	15	35		09	28	48
17						

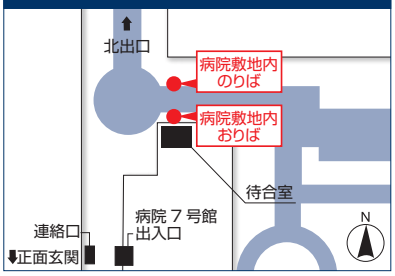
● 付き添いの方、お見舞いの方も無料でご乗車になれます。
（お身体の不自由な方は付き添いの方とともにご乗車ください。）

2021.7 現在

JR高槻駅南側ロータリー③番乗り場



病院7号館北側ロータリー付近



※当日の道路の混雑状況･天候により時刻表どおりの運行ができない場合がありますのでご了承ください。

医療連携室ご利用のご案内

● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00　土曜日／8:30～12:00
※第2･第4土曜日は休診です。
※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。
但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室
〒569-8686　大阪府高槻市大学町2-7
● TEL.072-683-1221（大代表）内線2308
● TEL.072-684-6338（医療連携室直通）

FAX **送信先 FAX 072-684-6339**

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください

編集後記

相変わらず新型コロナ感染症に怯える日々が続いておりますが、そのような中、東京オリンピック･パラリンピックが開催されました。無観客ということもあり通常より派手な演出も抑えられた印象を受けましたが、皆さんはどのように思われたでしょうか。選手にとっては4年に1度しかない大会で一生に一度参加できるかどうかの一大イベントです。今回、メダル候補と言われていた選手が予選で敗退したり、失礼ながらあまり期待されていなかった競技でメダルを獲得したりと、如何に本番で実力どおりの力を出すことが難しいかを思い知りました。改めて出来て当然、失敗の許されない病院業務という仕事にこれからも真摯に向き合い、一生懸命取り組んでいきたいと思います。(H.N.)